

私は今回の「高校生による海外エネルギー事情研修会」に参加して、原子力発電のことに  
ついて、今まで知らなかった新しいことを多く知ることができました。

原子力発電について聞かれると、私は今までは放射線や原子力についてデメリットとメ  
リットをよく理解しないままに、原子力発電に賛成していました。しかし、この研修を通じ  
て原子力は適切に管理することができれば安全であり、それぞれの国でそれぞれの安全対  
策をしていることがわかりました。

例えば、日本では地震の対策のため、2011年の東日本大震災の後に世界で1番厳しい基  
準が出来ました。それを達成するために私たちが見学に行った、東通原子力発電所ではいく  
つもの事態を想定して、それに絶対対処できるといっても過言ではないほどの多くの設備  
が作られている最中でした。

以前の私は「原子力発電所では安全対策がなされているものなのだろう。」そんな不確か  
かであやふやな知識で、何故かそのコストや二酸化炭素のメリットだけを信じていました。自  
分でも何故そんなことを信じていたのか不思議です。しかし、東通原子力発電所の見学を通  
して、私には原子力発電所は確かに事故への対策がなされているように見えました。それに、  
世界中の国でこれなら安全だろうと決めた基準がありますが、日本はそれを越える基準な  
のですから本当に安全に思われるのです。もちろん、私は原子力発電が絶対に安全ではない  
ことも学び、慢心することは危険であるとも思うようになりました。しかし、この安全性に  
ついてはもっと多くの人を知ることができたいと思いました。

日本では主に地震への対策をしているということを見学を通じて学びましたが、オラノ  
社の再処理工場や、フォルシュマルク原子力発電所の見学から、それぞれの国がそれぞれの  
国の事情に応じた安全対策を行っていることを知りました。フランスではテロへの対策が  
強いように思われ、スウェーデンでは水の確保への対策がとられているように思われまし  
た。

日本で原子力に反対する人のなかには、このような安全対策を知らない人も多いのでは  
ないかと思います。私は小学生のころに学校で、放射線に対して親しみを持つための実験を  
まじえた授業を受けた記憶があります。このように、放射線へ理解を持つようにすることは  
大切です。しかし小学生の私は結局、放射線についてそれほど理解を持たなかったと思いま  
す。それですから、もっと大人にも子供にも何度も訴えかける必要があると思います。

海外の高校生とのディスカッションからは、今までの私になかった考え方が出て面白い  
と思いました。「なんで地震があるのに日本では原子力発電をするの？」や「原子力を減ら  
していく目標はあるの？」といった意見です。

「なんで地震があるのに日本では原子力発電をするの？」

私は、日本は二酸化炭素の排出を減らしたり、電気料金の安定のなどの点で原子力発電は  
必要だと思うのですが、確かに日本で原子力発電を行うのは危ないと思いました。原子力の

代わりとなる他の発電方法を考えてみることも、もちろん大切なことだと気づくことが出来ました。

「原子力を減らしていく目標はあるの？」

これが1番、私にとっては盲点となる意見でした。確かにフランスやスウェーデンでは今は原子力発電を利用していくものの、将来的に原子力発電を減らして再生可能エネルギーでの発電の割合を増加していくことを目標としているのでした。日本には原子力発電を減らしていく目標はない、さらに処分場なども決まっていないので、それを決めていくことによって、もしかすると日本の人は原子力への理解が増すのかも知れないとも思いました。しかし、現時点では再稼働した原子力発電所は少ない状況であり、原子力を減らしていく目標を定めることは難しいとも思いました。

私がこの研修を通して1番驚いたことは、スウェーデンの人達の環境への意識の高さです。自転車のための道路がきちんと整備され、自転車を使い、自動車の利用を減らそうとしているのです。また、ゴミ収集の時に車を用いるのも二酸化炭素を排出してしまうという理由で、地下にある真空管でゴミを回収していました。将来的には化石燃料を完全に使用しないようにしていくというのです。本当に驚きました。日本では、例えば、冬の寒いときに自転車を環境のために利用しようと思う人は少ないと思います。寒いし、滑って危ないからです。しかし、スウェーデンではタイヤを冬用にかえ、自転車を使うのです。このように1人1人の環境に対する意識を高く持つことは、原子力発電が二酸化炭素の排出がほとんどないことに注目する以前に重要なことだと思いました。

そう思っていたら、おりました。私の周りにも環境への意識の強い人が、学校の後ろの席に。私がいらぬ紙を捨てようとしたときに、紙は資源ゴミだと注意されたのです。もしかすると、意識が低かったのは私自身だったのかもしれないと気付きました。私も、その当事者の一人だったのです。

このエネルギー研修会を通して私は、原子力発電やエネルギーに対する考え方が今までよりずっと深くなりました。そして、エネルギーに対する考え方や環境に対して関心が高くなりました。環境に関しては、まずは一人ひとりの意識が大切だと気づいたので、自分のできることからやっていきたいと思えます。原子力発電やエネルギーについては一人では難しいところがありますが、私が見たこと、聞いたこと、体験したこと、ディスカッションしてきたことをいろんな人に伝えたいです。

この研修に私を参加させてくださり、また大変貴重な体験をさせていただいた方々、また両大使館、フランスやスウェーデンの見学先の方々、先生方、家族など、全ての方々に感謝します。ありがとうございました。